一般財団法人　神奈川県高等学校教育会館　主催

ハイブリッド開催

２０２３年度
教職員のための
夏季教育講座
募集案内

教職員・学生以外の方もお申込できます。
市民に開かれた講座です。

講座A

８月１日（火）午後　14:00～　要望の多い保護者との関係づくり

最近の学校現場では、保護者の過度な要求や態度が珍しいものではなくなっています。学校現場では本来の業務である子どもへの教育にも支障をきたすことが少なくありません。一方、保護者の側から見ると、かなり違う世界が見えてきます。保護者が安心して生活できなくなっている現状があるのです。では、学校は保護者とどのように向き合えばよいのでしょう。学校が保護者と軋轢を生じないですむいくつかの方策を紹介していきます。学校のために、保護者のためにはもちろんですが、何よりも子どもと向き合うという観点でご紹介したいと思います。

講師　ヴィヒャルト千佳こさん

1954 年兵庫県生まれ。臨床心理士。鶴が峰心理グループ代表責任者。精神科心理カウンセラー。南藤沢心理相談室主宰。精神科クリニック３箇所にて嘱託心理カウンセラー。保育園、幼稚園、学童保育への心理相談。1995 年より文部省委託スクールカウンセラー、2006 年から公立学校スクールカウンセラーに。1997 年からは私立高校スクールカウンセラーにも。神奈川県不登校訪問相談員スーパーバイザーなどを歴任。執筆、講演活動も多数。

講座B

８月２日（水）午後　14:00～　今、改めて「教育とは何か、学校とは何か」を考える

少子化が進む中、新型感染症・GIGA スクール構想・18 歳成人・こども基本法‥‥学校を取り巻く環境が大きく変化しています。同時に、教員の「働き方改革」が叫ばれる中、教員志願者が不足しつつあります。この際、「教育とは何か、学校とは何か」について、そもそも論から俯瞰して考えてみたいと思います。

講師　広田照幸さん

日本大学文理学部・教授。1959 年生まれ。日本教育学会・前会長。
研究領域は、近現代の教育を広く社会科学的な視点から考察する教育社会学。
著作に『教育は何をなすべきか－能力・職業・市民』（ 岩波書店 ）、『教育言説の歴史社会学』（ 名古屋大学出版会 ）、『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』（ ちくまプリマー新書 ）など多数。

講座C

８月３日（木）　午前　14:00～「哲学対話」を高校教育で生かす ～教師に教えることで生徒は最大に学ぶ

「哲学対話」を教育に取り入れること（「こども哲学」）を提唱しておられる講師から『じぶんで考え　自分で話せる　子どもを育てる哲学レッスン』の実践を学びます。考える力、話す力を養う「こども哲学」は、高校のさまざまな科目にも使えます。今回の講座ではシチズンシップ教育、「総合的な探究の時間」を取り上げ、「主体的、対話的で深い学び」、「教師からは教えない教育、教師が生徒から教わる教育」について考えます。

講師　河野　哲也さん

立教大学文学部・教授。1963 年東京生。博士（哲学）慶応義塾大学。日本学術会議連携会員、日本哲学会など多くの学会の理事や委員を務める。専門は、現代哲学と倫理学。近年は環境の問題を扱った哲学を展開している。また、教育の問題にも関心を持ち、対話によって思考とコミュニケーション力を養う教育を、幼稚園・保育園児から高校生を対象として、多くの学校や図書館などで実践している。